

高齢者の住まいが多様化する昨今。介護施設だけではなく高齢者向け住宅の供給も進んでいる。今号からシニア分譲マンション「インディペンデンスヴィレッジ成城西」の協力のもと、高齢者向け住宅で暮らすアクティブシニアの日常を連載で紹介。入居者の生の声から見える、高齢者向け住宅のあり方や今後の課題、向かうべき方向性を考えていく。

第1回 花ある暮らしにある夫婦の取り組み



「花がないなら、自分で植えればよい」

6年前に入居した辛島紀男さん(76歳)と久美子さん(74歳)夫妻は、マンション内の「花」担当を買って出た。

屋上や玄関前の花壇、エレベーターホール前の広間には、辛島夫妻が栽培し手

入れしている花々が置かれ、入居者と来訪者を迎える。

高齢期の住まいには「安心、安全、快適」を最重視している紀男さん。自立型分譲マンションで暮らすため、出来るだけ自分たち入居者で実現させようと花に囲まれたマンションづくりに取り組む。

紀男さんはもともと地方公務員として、県の園芸試験場で長年働いてきた。大学では園芸部に所属する根っからの園芸好き。花を見て楽しめるよう、マンション

大好きな趣味活動、入居後も変わらずに



辛島 紀男さん(76) 久美子さん(74)

ンの中庭にはユリの花を無造作に植えた。花を嫌いな人はいない、という紀男さん。

「庭のこっちも咲いて、

あっちにも咲いている。規則的に並べるのではなく、広い庭で花を見つけたら、みを作り出したかった」

「マンション緑化計画」の企画立案は久美子さん。紀男さんは「自分はただの作業員だ」と笑う。好きな花を好きな場所に植え、定期的に手入れする。ポランテアでマンションの快適な環境を支える。

辛島さん夫妻は長年、東京都町田市の庭付きの戸建てで暮らしていた。当時から二人共通の趣味は園芸。庭いじりが好きだった。住み替えを考え出したのは、紀男さん70歳、久美子さん68歳のとき。「両親を

長プレーヤーとして週に数回、練習に参加する。久美子さんも同じく町田市の友人と趣味のクラシック鑑賞で帰宅が遅くなることもしばしば。

自分たちの趣味や交友関係を無理なく継続し、花でマンションの環境整備に自発的に取り組む。

【取材協力・インディペンデンスヴィレッジ成城西】

東京都世田谷区。生活支援付きの高齢者向け分譲マンションとして平成15年に竣工。全68戸。

※毎月15日号に連載します。